

# 人類は進歩しているのか：After and before corona に向けて

明治大学商学部 村田 潔

## 1. 研究報告のねらい

本報告は、公開シンポジウムの趣旨に則り、コロナと共に生きる（with corona）新常態（new normal）という現在の社会状況の中で見えてきたさまざまな問題点や今後の社会・経済の展開について、コロナ克服後の社会（after corona）ならびに次に発生する可能性のある新たな社会的脅威（before corona）をも視野に入れ、情報学的にアプローチするとともに、感染症に関する文献の内容に照らし合わせて、果たしてわれわれ人類が進歩しているのかについて検討する。

## 2. With corona の局面で見えてきたこと

私たちは今、新常態という局面に置かれている。ここで見えてきたことの一つは、一般市民と、中央政府・地方政府、そして専門家、とりわけ医療専門家との間の「不信の三角形」である。お互いがお互いを信用できない存在であると見なしていることが、社会のここかしこで見受けられ、それでいてお互いがお互いを都合よく使おうとする構図が見て取れる。そして、この不信の三角形を、コマースリズムにまみれたマスメディアが拡大しようとしている。

## 3. 情報はどこにあるのか？

私たちは、漠然とした不安の中で生活をしている。COVID-19 がどのような病気で、新型コロナウイルスがどのような特徴を持っているのかは、まだはっきりと私たちに知らされていない。ワクチンがいつ利用可能になるのか、いつまでこの状態が続くのかも分からない。そして何より、COVID-19 がどれだけ私たちの生命や生活にとって脅威となっているのかを判断する情報が手に入らないし、どのような情報が必要なのかについてもあまりよく理解できていない。また、経済状況が本当のところどうなっているのかについても、ほとんど適切な情報が入手できていない。

## 4. 人類は進歩しているのか？

人類の歴史は、感染症との戦いの歴史でもあった。そうした歴史から、私たちは何を学んできたのであろうか。そして今、何を学びつつあるのだろうか。